

子育て支援環境の現状は

答 関係機関が連携し、対応しています

子育て世帯に寄り添った対応を

問 国はこども政策の推進を目指すし、2023年4月1日「こども家庭庁」を設置する予定です。こどもの貧困、虐待、少子化の解消を目指し、子どもの権利を守るための組織とのことです。本町における現状の対応を伺います。

町長 妊娠、出産から子育て全般にわたり、お子さんの成長段階に応じて保健福祉課、子育て支援課、こども園、教育委員会などが



子育て世帯が安心して暮らせる町に

連携して施策を展開しています。

問 妊娠、出産、子育てにおけるそれぞれの問題に対し、どのように対応、連携していくのでしょうか。

町長 国の動向を注視し、相談体制の強化や整備を図ってまいります。現状では、現行の体制で適切に対処してまいります。

問 保護者からの意見の吸い上げはどのように対応するのか伺います。

町長 町として、学校とこども園、そして家庭が連携、協力していきけるような機会を通じて支援してまいります。もちろん、個別の案件についても遠慮なくご相談いただければと思います。

問 千葉県では、9月補正予算案において県内の公立小・中学校に通う第3子以降の給食費を無償化する事業費が計上されましたが、これに関連して本町における第3子以降の人数をお示し下さい。

子育て支援課長 児童手当法に基づく義務教育中の第3子は合計93名です。

問 DX推進の観点から、本町でも子育てに特化した子育て支

若者人口の現状は

答 増加傾向であると認識しています

子育て、移住支援の成果は

問 よって、子育て、若者人口の流入、流出は施策開始以前と比較してどうなっているのか伺います。

町長 本町の住民基本台帳人口の動向によると、多古こども園が開園した平成26年度においては、転入者が410人、転出者が508人と転出超過の状況にありました。その後、平成29年度から3年間は転入超過に転じ、コロナ禍前の令和元年度においても、転入者が544人、転出者が515人と転入超過となっております。令和2年度以降については、コロナ禍による外国人の転出などにより転出超過に転じましたが、令和4年7月末現在では再び転入超過となり、平成26年度以降の社会動態については増加傾向であるものと認識しています。

問 多古町移住定住情報発信サイト「RURAL LIFE」について、現在までの閲覧件数と、それに伴った就農、起業の相談件数及び進捗状況はどうなっているのか伺います。



サイト活用の状況は

町長 令和3年2月に開設した本サイトへのアクセス件数は、令和4年7月末現在で3万9605件でした。就農の相談件数は、令和3年度中に7件、起業に関する相談件数は、令和4年度当初7人でしたが、そのうち、すでにお一人の方が「多古町魅力活力にぎわい創出支援事業補助金」を活用して新たに町内で事業を開始しており、さらに別の方は、年度内には事業を開始できる見込みです。

佐藤 利治 議員

所要時間 56分



問 援アプリを導入してはどうでしょうか。育児に関して悩まれている方々は、みんなで相談したり助け合いながら子育てをしている現状です。そのような方々を支援する意味でも検討いただきたいと思いますが、町のお考えを伺います。

企画政策課長

今後、DXを進めていく中で担当課と協議し、研究、検討を重ねてまいります。

インクルーシブ遊具の導入を

問 本町の公園整備において、導入、入れ替えるならばインクルーシブ遊具であると思いますが、町の考えを伺います。

町長

障害のある子もいない子ども遊び場所で楽しむことができ、誰もがインクルーシブ遊具の考え方には、共感いたします。また、今定例会で補正計

萩原 宏紀 議員

所要時間 34分



問 子育て、若者人口が増加するにつれて、居住区の確保など課題が生じていると思います。その対策の一つとして、町営住宅なども挙げられると思いますが、町の考えを伺います。

企画政策課長

まずは町が運営している空き家バンクの物件登録を引き続きあっせんしていくとともに、子育て世帯、あるいは移住希望者、Uターン希望者の方が住めるような環境整備を町として政策的に進めていけるのか、他の自治体の事例なども参考にしながら、広い視野を持って、今後、研究、検討してまいります。

問

男性の年収が上がるといって、既婚率も上がっているという調査結果が出ています。個人で稼ぐ力を身につけていくためにも、起業を促進するセミナーなどを設けてみてはいいかなと思います。町の考えを伺います。

上させていただき、複合遊具をあげたい公園に設置する予定ですが、今後の公園施設の整備については、利用者のニーズなどに配慮しながら、インクルーシブ遊具の導入も含め、検討してまいります。

問 お子さんやお孫さんと楽しく一日過ごすことができ、みんなで遊べる公園が町の中にあれば、にぎわいの創出を目指すことができます。また、インクルーシブ公園は、障害のある子もいない子も、もちろん大人も一緒に安心して楽しく遊べる公園です。多古町だからこそ、配慮が行き届いた公園整備を目指していただきたいです。

町長

あらゆる個性や背景を持ったお子さんが一緒に遊ぶことによって、お互いを理解し合うことができ、また、子ども同士だけでなく、付き添う保護者にとっても多くの気づきがあると考えているため、佐藤議員のご提案は大変有意義なものであると感じています。お互いの良さを認め合える、そのような地域を公園づくりだけでなく、町民と一体となつてつくってまいります。

産業経済課長

現在、地域経済備事業を進めており、知見を有する民間企業と連携することで、女性や若者が起業するための支援機能を持たせたいと考えています。

問 地域おこし協力隊の任期終了後の就業支援について伺います。

企画政策課長

ミーティングを重ねる中で、どういった形で本町に定住、定着していくのか、したいと希望しているのかを聞き取りし、その方に合った方向で支援してまいります。



稼ぐ力を身につけるための支援を

※DX(デジタルトランスフォーメーション)…デジタル技術によって、ビジネスや社会の形・スタイルを変えること。

※インクルーシブ遊具…身障者もそうでない人も、分け隔てなく一緒に楽しめるよう設計された遊具。